

並行在来線存続、全会一致で決議

上越市議会は6月18日、「並行在来線の存続に取り組む決議」を全会一致で採択しました。

会派・毘風が5月下旬、「並行在来線を廃止して、バスにする」などといった「提案(意見)書」をマスコミに明らかにして以来、これは各方面に大きな波紋を広げてきました。毘風以外の9会派37名の議員は、5日に木浦市長に「並行在来線存続」の申し入れをするなど、結束して対処してきました。また、14日には国労などで組織する「在来線を守る三市連絡会」が、毘風に対して「再検討を求める申し入れ」をするなど、市民の関心も高まってきていました。そうした中で、議会としての態度を明確にするために、この決議を行ったものです。

並行在来線の存続に取り組む決議(要旨)

上越市議会は、北陸新幹線の開業に伴う並行在来線については、市民の公共交通機関及び物流の交通機関として、その存続を基本に調査・研究活動を行ってきた。また、関係各県・市町村で組織する各種同盟会に参画し、新幹線の

建設促進と併せて並行在来線の存続のために運動を進めてきた。

特に、新潟県と沿線自治体で組織する「並行在来線のあり方懇談会」の報告書を踏まえ、並行在来線の存続問題が重要な局面にあることから、上越市議会としては、平成9年と12年に新潟県と沿線自治体とで交わした「確認書に基づき、新潟県が責任を持って対処するよう強く要請している現況にある。

一方、過日開催された北陸新幹線建設促進同盟会は並行在来線の経営が成り立つように、初期投資に対する支援制度の創設、JRから資産譲渡に対する格別の配慮等の措置を講じることを決議し、政府に強く要請してきたところである。

上越市議会は、このような情勢を踏まえ、市民の公共交通機関としての並行在来線の存続に向けて、これまでの方針に基づき、沿線自治体とともに引き続き強力に取り組むことを改めて決議する。

「栄養士から現場労働者への直接的な指示」などをめぐり、考える会と市教委が懇談

上越市学校給食を考える会(小関信夫市議、杉本市議など6人が代表)は27日、学校給食調理部門の民間委託に関して先に申し入れた事項について市教委学校教育課と懇談しました。(上の写真の右)

このなかで市教委側は、学校給食運営委員会を学校給食民間委託を続けるかどうかなどを「全市的なレベルで検討する検証機関」として位置づけていること、そして同委員会を7月に開催することなどを明らかにしました。

この日、最も議論になったのは、現在、学校給食民間委託の試行をしている城北中学校において、学校側の栄養士が現場で作業している主任に直接指示を出している点についてでした。「法的に問題ない」としていた市教委と「偽装請負に該当するのではないか」とする考える会の間で認識に大きなズレがありました。

なお、今回の民間委託試行にあたっての最終的な検証項目について市教委は、近く、考える会と市議会文教経済常任委員会に明らかにするということです。

専門家とともに最終処分場候補地視察

日本共産党議員団は16日、地元の地質専門家などとともにゴミの最終処分場候補地である宮野尾(春日山城の西方にある地域)へ行ってきました。谷間の現地まで踏み込んだ調査は初めてでした。(上の写真)

道に迷い、約1時間半歩いて到着。海拔125メートルほどの現地で地質図、地形図を広げて説明を聞きましたが、現地は地すべり指定地にはなっていないものの、地すべり地帯でした。杉本議員団長や橋爪議員は、数が少なく、保護対象とすべき昆虫や植物と出会わないか観察を続けました。6月議会では、樋口議員の一般質問で、地元専門家から調査してもらったことを検討するとの答弁がされています。



ヤマフキシヨウマ

日本共産党上越市議員団ニュース

9 8	2 0 0 7 年 7 月 1 日
連絡先	杉本敏宏 5 2 4 - 3 7 8 7 (東本町5)
	樋口良子 5 4 4 - 6 8 0 2 (中門前3)
	橋爪法一 5 4 8 - 3 6 2 8 (吉川区代石)
事務局長	上野公悦 5 3 0 - 2 2 0 3 (頸城区中柳町)